

すくすく消費者

島根県 令和7年度
消費者教育情報紙 第42号

■トピックス (P1)

令和6年度消費者教育に関する教員研修会の開催

■実践教育事例 (P2-P11)

- ・島根県社会科教育研究会
- ・島根大学教育学部消費者教育研究会
- ・島根県特別支援学校教育研究会 島根県消費者教育推進連絡会

トピックス

令和6年度消費者教育に関する教員研修会の開催

島根県教育センター
指導主事 秋月広美

令和6年度消費者教育に関する教員研修会が10月16日、サンラポーむらくもにて現地参加とオンラインのハイブリッド形式で開催され、研修には、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員など18名の参加者が集まりました。今回の研修会では、消費者教育の最新の視点を学び、学校における消費者教育の推進を目指して、昨年度に引き続き横浜国立大学の松葉口玲子教授、島根大学教育学部附属義務教育学校前期課程の竹吉昭人教諭の講演が行われました。

松葉口教授の講演では、「VUCA / SDGs 時代に求められる学校での消費者教育～金融経済教育も射程に入れて～」と題して、学習指導要領で求められる消費者教育の考え方についてお話いただきました。消費者教育を新たな「〇〇教育」として、単に「消費者被害防止」という狭い視点で取り組むのではなく、各教科等の中で子どもたちが「消費者」として様々な学びを活用していくという視点を意識することが重要だと述べられました。これにより、すでに消費者として存在している子どもたちが従来の教育内容を現実生活の中で活かす力をつけることができ、それが個人と社会のウェルビーイングを追求するエージェンシー（主体的に社会に関わっていく力や態度）の育成に繋がると説明されました。また、高校家庭科における学習指導要領の改訂点として、新たに加えられた「投資や資産形成」に「資産形成の視点にも触れる」との記載があることについて、従来から小・中・高の家庭科・技術家庭（家庭分野）の消費生活・環境に関する内容として、金融経済教育にかかわる内容は取り扱われており、大きな変更はないと説明されました。さらに、学習指導要領改訂における大きな変更点は、小中高の系統性や成年年齢の引き下げを踏まえ、内容C「持続可能な消費生活・環境」として、柱の一つに位置づけ、その中の「2. 消費行動の意思決定」に、「意思決定の重要性」という内容が追加されたことです。これにより、消費者として自覚し、意思決定ができる力を育成することが求められていると説明されました。

続いて、竹吉教諭から、「教科学習における消費者教育の実践について」と題して、家庭科を通した消費者教育の取組についてお話いただきました。前期課程と後期課程の合同授業で行ったエシカル消費を題材にした授業や、弁護士の方を招いて行った売買契約に関する授業など、連携を図った取組について紹介されました。また、調理実習と関連させて行った計画的な金銭管理の授業や食品ロス削減に関する授業、リメイクと「生活を豊かにするための布を用いた物の製作」を関連させ、地域の専門家からの学びを得た授業の実践も紹介されました。家庭科において、「C 消費生活・環境」の内容は他の学習内容と関連づけることが重要であり、消費者教育の視点を取り入れることが教科としての資質・能力の育成につながると改めて感じました。

午後は、ワークショップが行われ、参加者で消費者教育推進法成立に影響を与えた PERL（旧：消費者市民ネットワーク）が作成した教材を体験しました。今回の研修会を通して、消費者教育を効果的に進めるためには、各教科の授業に消費者教育の視点を取り入れ、意識的に関連づけることが重要であると再認識しました。また、各教科等での学習を通して育成される資質・能力を消費者教育で育成を目指す資質・能力と繋げていく重要性も改めて感じました。今回のような研修会に教科を問わず多くの先生方に参加いただき、消費者教育への理解を深め、実践に繋がっていくきっかけとしていただきたいと思います。

地域の特色を生かした特産物の学習を通して 消費者としてのよりよい行動を考える児童の育成

～第4学年 「特色ある地いきと人々の暮らし」の学習を通して～

島根県社会科教育研究会

指導者 松江市立内中原小学校 吉崎 雄貴
(現 松江市立津田小学校)

1. はじめに

第4学年の社会科「特色ある地いきと人々の暮らし」の単元では、地場産業が盛んな地域や国際交流に取り組んでいる地域や自然環境や伝統的な文化を保護・活用している地域などの様々な特色をもつ地域が県内にはあり、人々が協力し特色あるまちづくりや産業の発展に努めていることを学習していく。本授業では、県内の特色のある地域について考えていくきっかけとして、まず初めに地元である松江市を取り上げる。松江市は、中海や宍道湖など水とのかかわりが深く「水の都・松江」と呼ばれており、「宍道湖」や「堀川」など「水」を生かしたまちづくりが進められている。また、宍道湖でとれるしじみは漁獲量日本一を誇り、島根県のしじみの消費量も日本一である。つまり、しじみに関して言えば地元で獲れたものを地元で消費する「地産地消」の意識が高いといえる。そこで、「宍道湖」や「堀川」など松江市にとって身近な観光資源である「水」を生かしたまちづくりについて学習を進めた後、松江のしじみについて取り上げる。ここでは、「地産地消」の考え方にも触れ、自分たちが普段食べているその他の食材についても考えを広げていく。その後、松江市から県内の他の地域へと視点を広げ、どのような特色を生かしてまちづくりを進めているのか調べ、まとめていく。

このように、本授業では島根県内の自然を生かした特産物や生産者の思い、特産物に限らず地元の食材を購入することのよさについて学び、そこから特色を生かした他の産業や取組へと視野を広げ、地域に生きる消費者として自分たちにできることは何かを考え、実践していく態度を育成していく。

2. 単元名 「特色ある地いきと人々の暮らし」

3. 単元の目標

島根県内の特色ある地域の産業や人々の活動に関心をもち、人々が協力しながら自然環境、伝統や文化などの地域の資源を保護・活用し、特色あるまちづくりや産業の発展に努めていることを理解するとともに、地域社会の発展に向けて自分たちにできることを考え、実践していく態度を養う。



4. 単元構成（全21時間）

1次	第1時	・県内の特産物や特色の違いについて話し合い、学習問題をつくる。
	第2時	・「水の都・松江」というキーワードから「宍道湖」、「堀川」を取り上げ、松江市が「水」をどのように生かしてまちづくりをしているか考える。
	第3時（本時）	・松江市のしじみについて取り上げ、地産地消の考え方を知り、よりよい消費活動について考える。 ・食材だけに限らず、伝統工芸品や伝統文化、自然などに視野を広げ、それらを守り、発展させていくために、消費者としてできることを意識させていく。
2次	第4時～12時	・県内の他の地域（安来市・出雲市・隠岐郡・浜田市）の特色や特色を生かしたまちづくりについて調べる。
3次	第13時～18時	・地域の特色や調べることで分かったその地域のよさをプレゼンテーションソフトでまとめる。
4次	第19時～21時	・まとめたことを発表し合い、地域社会の発展に向けて自分たちにできることを考える。

5. 授業の実際

本時では、しじみの漁獲量と消費量が全国1位である事実から地元で生産されたものを地元で消費する「地産地消」の考え方について知り、「地産地消」のよさや普段の自分の消費行動について考えた。「地産地消」のよさについて考えていく中で、「おいしい・安全」といった商品の価値だけでなく、「新鮮」という発言から商品の輸送距離に着目し、輸送にかかる費用や環境への影響についても考えることができた。また、生産者のインタビュー動画を視聴することで、「農家の人が喜んでくれる。」「地元の人のために安全で美味しいものを作ってくれている。」といった生産者の思いや願いについても考えを深めることができた。児童のふり返りの中にも「買い物に行ったときにどこでつくられているものか確かめて買いたい。」「自分たちのためにつくってくれたものを残さずに食べたい。」といったものが多数あり、学習を通して「地産地消」のよさについて理解し、消費行動を見直したいと考えた児童が多くいたことが分かった。



次時以降、県内の他の地域の特色について学習をしていく。学習を進める中で子どもたちは、「伝統工芸品」や「伝統文化」「古くから残るもの」をこれからも受け継いでいくにはどうしたらよいか、特色ある自然環境を守るためにできることはないかといった視点で考えることができた。これは、「地産地消」の考え方を通して、故郷である島根県でつくられているものや受け継がれているものを大切にしていかなければならないという意識が高まったからだと考えられる。それぞれの地域のもつ特色（魅力）を生かしたまちづくりについて関心をもって学ぶだけでなく、地域のもつ魅力を守り、発展させていく意識をもつことが同じ地域に住む一員として大切なことであると考えられる。今回、「地産地消」の考え方を広げることによってそういった意識を子どもたちにもたせることができた。今後も地域に生きる消費者の一員としてよりよい行動を考えることで、地域の魅力にまで視野を広げていける子どもを育てていきたい。



ICT を活用した消費者教育の単元開発

～自立した消費者になるために必要な条件を考える～

島根県社会科研究会

指導者 飯南町立頓原中学校 教諭 万代 智彰
(現 雲南市立掛合中学校)

1. はじめに

本校は、全校生徒35名（うち3年生9名）の小規模校である。飯南町はりんご狩りができる観光農園やスキー場などがあり、自然豊かな地域である。今年度は「ICTその先へ」をテーマに校内研究を進めてきた。社会科では、「個別最適な学習」、「協働的な学習」をテーマに「Googleドキュメント」をはじめとする「Google for Education」の各種サービスや共同作業ツール「Figjam」を活用した授業実践を積み重ねてきた。消費者教育を実践するにあたり、本単元では、協働的な学習活動を中心に展開し、他者の考えに触れながら「自立した消費者」になるために必要なことや注意すべき点を生徒一人一人に考えさせた。

2. 単元名 私たちの暮らしと経済「消費生活と市場経済」

3. 単元の目標

- ・様々な契約の事例や決済方法を知ることを通して、より良い消費生活を目指す意識を持つ。(主体的に学習に取り組む態度)
- ・より良い消費生活を送るために必要なことや契約を結ぶ際に注意すべき点について、考察、表現する。(思考・判断・表現)

4. 単元を貫く問い 「自立した消費者になるために必要な条件は何だろう」

5. 単元構成

時	学習内容	主な学習活動
1	私たちの消費生活	・家計簿を使ってお金の使い道を考える。(写真1) ・お金の使い方考えるときに重要なことをまとめる。(写真2・3)
2	契約と消費生活	・日常生活の様々な場面から契約について知る。 ・広告に込められた制作者の意図や見る側の注意点を考える。
3	消費者の権利	・悪徳商法などの様々な消費者問題の内容を知る。 ・消費者問題を解決するためにできることを考える。
4	消費生活を支える流通	・身近に様々な小売業者や流通経路があることを知る。 ・流通の合理化を進める理由をグループで話し合う。
5	単元の振り返り	・振り返りシートに【単元を貫く学習課題】に対する自分の考えをまとめる。

6. 学習の様子と生徒の振り返り

1 時間目

写真1 Googleスプレッドシートで作成した家計簿

みんなでチャレンジ 1か月のお金の使い道を考えよう			
名前 ()		収入	
			¥310,000
項目 (何に使ったか)	支出 (使ったお金)	残高 (残ったお金)	
1 食料	¥40,000	¥270,000	
2 住居	¥50,000	¥220,000	
3 光熱・水道	¥7,000	¥213,000	
4 家具・家事用品	¥3,000	¥210,000	
5 被服およびはき物	¥9,000	¥201,000	
6 交通・通信	¥25,000	¥176,000	
7 教養娯楽	¥50,000	¥126,000	
8 交際	¥11,000	¥115,000	
9 税金・社会保険料など	¥54,000	¥61,000	
10 その他	¥27,000	¥34,000	
収入 (入ってきたお金)		支出 (使ったお金)	残高 (残ったお金)
¥310,000		¥276,000	¥34,000

写真2 Figjamの活用例

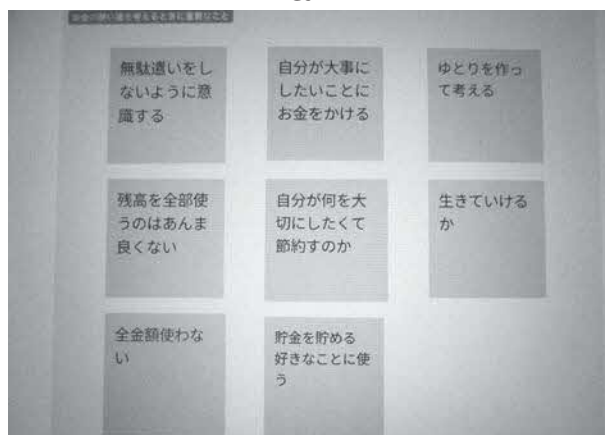


写真3 意見交換の場面



毎月31万円の収入があるとして、「食料」「住居」「教養娯楽」にいくら使うか、残高をどのくらい残すかを個人で考えさせた。家計簿のデータはGoogleクラスルームを使って一人一人に配信し、数値を自分で何度も入力できるようにした(写真1)。その後、グループで互いの割り当てを比較し、改善すべき点やお金の使い方を考えるときに重要なことについて意見交換をした(写真2・写真3)。

(生徒の振り返り)

- お金を使うときは、無駄遣いをせず、貯蓄を将来のために残しておくことが大切だということがわかった。
- 収入は限られているから、一定の収入や時間の中で必要な商品を選択しないといけない。

5 時間目

ある生徒がまとめた自立した消費者になるための条件 (Googleドキュメントを活用)

- 無駄遣いをせず計画を立ててお金を使う。
- クレジットカードを使うときには自分の貯金を把握して使う。
- 契約するには内容を慎重に検討して詐欺などに気をつける。
- 自分で情報を集め、正しい判断力を養い、それに基づいて行動する。

7. まとめ

本校は小規模校であるが、それを強みにして、学年の実態に応じた学習活動が展開できていると感じている。協働的な学習活動を取り入れた消費者教育の実践を通して、生徒一人一人が「自立した消費者」になるために必要な条件を自分事として考え、表現することができたと思う。今後、消費者教育を実践する際は、ゲストティーチャーの専門的な視点からも学習できるように出前授業を取り入れてみたい。

消費生活・環境に配慮した布を用いた製作の授業開発 ～リメイクの視点をいかした小・中学校の製作活動～

島根大学教育学部消費者教育研究会

竹吉 昭人・湯浅 里保・鎌野 育代・井上 富美子・多々納 道子

1. はじめに

本実践研究では、「衣生活」の内容に焦点をあて「消費生活・環境」の視点として“リメイク”に着目して題材計画を立て授業に取り組んだ。衣生活を取り巻く大きな課題として、大量生産・大量消費の傾向があることが挙げられる。安価で質も決して悪くない衣服が身の回りに溢れ、私たちの生活に気軽にファッションを楽しむ“豊かさ”をもたらしている。一方で、大量生産・大量消費された衣服は大量廃棄につながっている。持続可能な社会の構築に向けて、衣生活に主体的に関わる中で、物を大切に使うことや、「捨てる」以外の選択肢をもつことはこれまで以上に必要な視点と考える。前期課程（小学校）では、製作計画を立てる際にリメイクの視点を加えた。製作によって得られる生活の“豊かさ”を、便利さや楽しさに留まらずにさらに広げ、子どもたちがより豊かに衣生活に関わり製作活動に取り組めるようになることを目指した。後期課程（中学校）では、生徒が身の回りにある布製品をリメイクして製作に取り組んだ。製作過程や製作物、実際に使用したことを振り返りながら、今後の衣生活との関わりの中で自分自身ができることを考え、より豊かに生活していこうとする意欲と態度を育んでいくことを目指した。

2. 題材のねらいと題材計画

～前期課程6年（小学6年）～

○題材名「布で作ろう！～製作を通した生活の“豊かさ”を考えながら～」

○ねらい： 本題材では、布を用いた製作の学習の中で、製作を通した生活の“豊かさ”を考えながら問題を見だし課題を設定し、持続可能な社会の構築の見方・考え方も踏まえながら課題解決を図ることをねらいとした。製作で使用する布を検討する際に、リメイクの視点を取り入れることで、衣生活に関して、便利さや楽しさだけでなく、環境に配慮した生活や持続可能な社会の構築にもつながる“豊かさ”を考え、そのことを実践することができる技能として製作を捉え、日々の生活に主体的に関わっていこうとする力を育みたいと考えた。



洋服のリメイクをされる
坂根由美子さんによる講話

○題材計画（全12時間）

時 間	内 容
①	・製作に向けて、どのような思い（誰に、何のために）を形（何を作るか）にしていくなかについて、思いを高めたり、見通しをもったりする。
②	・製作に向けて、思いや見通しを具体的に計画に表していく。
③	・リメイクを通して、物との関わり方を考える。
④	・リメイクについて、講話を通して理解を深め、これからの生活や製作計画や製作につなげる。
⑤・⑥	・製作に向けた計画を練っていく。
⑦～⑪	・計画に沿って、製作する。
⑫	・製作したり、製作物を使ったりした振り返りや感想を共有し、これからの衣生活に関する“豊かさ”について考える。

～後期課程8年（中学2年）～

○題材名「布製品をリメイクして生活を豊かにしよう」

○ねらい： 本題材では、題材全体を貫く課題として「健康・快適で持続可能な衣生活のためにはどのようなことが大切なのだろうか」を設定した。最初に、「健康・快適」の視点で衣服のはたらきや着用、選択についての知識を身につけたり、日常着の手入れについて理解したり、技能を身に付けたりしていく。そして、製作では、目的に応じた縫い方や製作方法、用具の安全な取扱いについて理解し、製作が適切にできるようにする。そのうえで、資源や環境に配慮し、生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、リメイク製作を行っていく。生徒の身近な生活の中から問題を見だし、生活を豊かにすることや、資源や環境に配慮することに関する課題を設定して製作を行うことで、よりよい衣生活を工夫し創造しようとする実践的な態度や、資源や環境を大切にしようとする態度の育成につなげていきたいと考えた。



製作の様子

○授業計画（全5時間 ※製作の内容のみ）

時 間	内 容
①～④	・自分の衣生活を振り返り、学習したことを活かしてリメイク製作をする。
⑤	・リメイク製作を振り返り、よりよいリメイク製作のための改善点を考える。

3. 成果と課題

小学校家庭科では、リメイクを用いた製作が必須ではないが、生活を豊かにする布を用いた製作を計画する際に、製作に用いる布を選ぶ視点の一つとして“リメイク”を取り入れた。リメイクによる製作は、ただ布を再利用するだけでなく、新たな物に生まれ変わったり、使っていた人の思いや願いをつないだりという視点でも、とても意味のあることだということを坂根さんのお話を伺い、実際に製作をすることで気づいた子どもたちだった。

学習後の振り返りでは、「相手を意識して裁縫をすることが勉強になった。相手が使いやすいように工夫して作ることができた」「前よりもリサイクルが身近になった気がした。余ったり、小さくなったりした服でまた作ってみたい」「洋服から作るふくろの形をイメージして作るのが難しかった。いつも使っているエコバックを作るのが大変だということが分かったので、大事に使いたい」との意見があった。

中学校家庭科では、リメイク製作にあたり、まず家庭生活の中で最近使っていない布製品や捨てようとしている布製品を探し、その理由や背景を考える活動から行った。破れたり、サイズアウトしたりした布製品でも、リメイクできる部分があることに気づいたり、全く使っていない物も、新たな有用な物に作り替えられることに気づいたりできた。また、思い出のある大切な物を生まれ変わらせることで、その思いを繋ぐことができることなど、リメイクの意義や有用性を考えながら取り組むことにつながった。

製作後の振り返りの場面では、リメイク製作の過程で気付いたことやリメイク作品を使ってみて気付いたことについて、写真とともに書き込んだり、友達の作品や気付きを他者参照したりすることができるよう、オンライン掲示板アプリ「Padlet(パドレット)」を活用した。リメイク製作がこの1回きりで終わってしまうのではなく、もしもう一度リメイク製作を行うとしたらどのような改善をするかを考えることで、リメイク製作が自分のよりよい衣生活を送っていくうえでの一つの選択肢となった。子どもからは、「幼い頃お気に入りだったTシャツが着られなくなってから捨てることができず、ずっとクローゼットに眠っていたけれど、クッションにリメイクすることで、お気に入りのアイテムとして部屋で使うことができている。綿を入れた後の縫い閉じ方の見た目が少し悪くて納得できていなかったけれど、友達から「コの字とじ」ならきれいに縫い閉じることができると聞いたので、やってみたいと思いました。着られなくなったTシャツがまだ家に何枚もあるので、コの字とじで縫い閉じたクッションにチャレンジしてみたいです。」という意見があった。

小学生では、リメイクや製作への興味・関心を高め、中学生は、より持続可能な社会の構築を意識した実践的な態度を育てていくことができたと考える。今日の社会的課題を解決し、より豊かな生活を自ら創造できる手段としても製作技能を捉え、積極的に活用する子どもたちの姿を期待している。

作業学習に必要な物の選び方や買い方を考えた適切な消費活動 ～インターネットショッピングを通して～

島根県特別支援学校教育研究会
島根県消費者教育推進連絡会
島根県立松江養護学校
中学部 倉石 正俊
(現 島根県立出雲養護学校大田分教室)

1. はじめに

本校の中学部は知的障がいのある58名の生徒たちが通学している。日常生活全般において支援を必要とする生徒から、身辺自立が確立し、人とのコミュニケーションを円滑に行うことができる生徒など、障がいの程度は様々である。

本活動の学習グループの12名の生徒たちは、日頃からICT機器に触れており、自分のスマートフォンを所持していたり、家庭にiPadを所持したりしている。その機器を使い動画視聴をしたり、オンラインゲームを楽しんだりしている。現在、インターネットを通じた消費活動は、保護者と一緒にインターネットショッピングをしたり、オンラインゲームの課金をしたりしているが、今後、一人でやる可能性のある生徒もいる。

しかし、生徒たちの障がい特性として、読み書き・計算が苦手であったり、抽象的思考の弱さがあったり、難しい文章を読み取ることに困難さがあったりする。また、消費活動の経験の浅さや、情報教育の少なさから、インターネットを通じた適切な消費活動を行うことへの課題があると考えられる。

そこで繰り返し体験的な活動を通じた適切な消費活動を学んでいくことで、今後の充実した社会生活につなげていきたい。また、消費活動でトラブルにあったときに一人で抱え込むのではなく、相談機関があることを知り、適切な対応の仕方を知ってほしいと考える。

2. 取り組みの実践（生徒の実践）

(1) 単元名「インターネットショッピングについて知ろう」

(2) 単元のねらい

- ・インターネットショッピングについて、正しい情報の活用の仕方を知る。【知識及び技能】
- ・インターネットショッピングにおける便利な点と危険な点を考え、様々な観点から商品を選択する。

【思考力・判断力・表現力】

- ・トラブルがあったときに相談できる公共施設と窓口があることを知り、活用しようとする。【学びに向かう力・人間性等】

(3) 学習内容

	学習内容	主な学習活動
1	事前調査	・インターネットの活用について事前アンケート
2	消費者問題出前講座 島根県消費者センター	・インターネットショッピングにおける「契約」について学ぶ。
3	インターネットショッピングで検索しよう	・便利な点と危険な点を考えながら、商品の選択をする。
4	疑似体験をしよう	・商品購入の疑似体験ができるサイトを利用し、お客様入力情報を入力する。
5	作業学習に必要な商品を調べよう	・インターネットショッピングサイトを活用し、作業学習に必要な商品を検索する。
6	振り返り	・事後アンケートを取り、インターネットショッピングの利便性と危険性を理解したかどうか把握する。 ・トラブル時の対応について確認をする。
7	作業学習に必要な製品を調べ、購入しよう	・作業学習の時間に作業学習に必要な商品を探し、購入する。 ・届いた商品を実践で活用する。

(4) 生徒の様子と振り返り

①インターネットショッピングの「契約」について（消費者問題出前講座）

- ・インターネットショッピングとお店で商品を買う時の「契約」について講座を受けた。インターネットショッピングでは、お試しで購入したものが定期購入となり、多額の請求を受ける場合があることや、偽サイトで商品を買っていると不良品があることについて学んだ。
- ・消費活動でトラブルがあった時には「188」に相談することを学んだ。



②インターネットショッピングで商品の検索

- ・インターネットショッピングサイトを利用して、「マリンシューズ」の検索を行った。検索するとたくさんのサイトがあり、どのマリンシューズが良いのか、金額やデザイン、写真等を見ながら商品を選ぶ姿が見られた。
- ・実物の2種類のマリンシューズを見て、インターネットで購入した物と店で購入した物を見比べる活動を行い、マリンシューズの靴底が薄い物と、頑丈な物とを比較した。インターネットショッピングでは、その場でたくさんの種類の商品を選ぶことができるが、実物を見て判断できないことの不便さを知った。また、店で購入するときは実際に行かないといけませんが、実物を見て判断できる良さなど、大まかな違いを知ることができた。



③お客様入力情報の入力を疑似体験しよう

- ・お客様入力情報の入力が疑似体験できるサイトを利用し、基本情報の入力作業を行った。生徒の実態により、入力速度や正確性などは異なったが、架空の入力情報の手本を見ながら、意欲的に活動に取り組んでいた。

④作業班で必要な商品を検索しよう

- ・各作業班で必要な商品の検索を行った。商品名を検索し、予算に合わせた商品を検索した。写真や口コミ、商品説明を見ながら、どの商品が良いのか、いろいろなショップを見比べながら検索する姿が見られた。



⑤振り返りアンケート

- ・振り返りのアンケートでは、生徒の実態によって理解度は異なるが、自分で文章を読み取ることが可能な生徒たちは、概ね、学習したことを理解していた。



⑥作業学習で商品を購入し、活用しよう

- ・作業学習の時間に、教員と一緒に作業学習で必要な商品を検索し、購入までの手順を行った。自分たちが選んだ商品が届くとうれしそうな表情が見られた。また、届いた商品を作業製品づくりに活用することで、生徒たちは達成感を感じていた。



3. まとめ

今回の学習を通して、生徒がインターネットショッピングの便利な点と危険な点に気づき、今後の充実した社会生活を送ることにつながるよう実践に取り組んだ。文章読解などの理解力やパソコンの文字入力の経験値、普段のICT機器への使用頻度など生徒によって実態は異なったが、どの生徒も興味をもち、意欲的に取り組む姿が見られた。ICT機器を使い、インターネットを活用することへの興味・関心の高さが伺えた。

しかし、一人でインターネットのサイト内の文章から情報を読み取ることや、いろいろなサイトを見比べて商品を検索していくことの難しさも感じた。また、お客様入力情報の入力においても、住所やメールアドレスなどを正確に入力することの難しさや、入力に時間がかかる姿があった。さらに、ほとんどの生徒は、日頃メールを利用したことがないため、商品購入時のやりとりをメールで行うということの理解の難しさもあり、一人で行うことへの課題も挙げられた。

今後、益々情報化社会が進み、生徒にとってインターネットを活用した消費活動が身近になることが予想される。正しい知識と活用能力をもちながら、トラブルに巻き込まれないためにも、支援者の助けを受けながら安全に気を付けて消費活動を行ってほしい。

SDGsの取り組みに関する動画制作を通して

～SDGs14、SDGs12の活動から生徒が学んだもの～

島根県特別支援学校教育研究会
島根県消費者教育推進連絡会
島根県立浜田ろう学校
中高部 二岡美奈子

1. はじめに

本校の高等部は被服科2年生1名、美術工芸科1年生2名である。今年度は3人でSDGsについて探究活動を行うことにした。学年や学科、教育課程も違う3人の合同学習である。SDGsは、自分たちの生活と密接に関わる目標が多く含まれており、一人ひとりができることから始めることができる取り組みである。生徒は自分たちの行動がどのようにSDGsに貢献できるかを考え、主体的に学ぶことができる。また、協働学習を通して、多様な意見を聞き、共感し、解決策を考え出す力を養うことができる。生徒がこの探究活動を通して、自ら課題を発見し、解決に向けて3人で協力してアクションをおこすことを期待し、学習をスタートさせた。

2. 取り組みの実際（生徒の実践 次ページに掲載）

3 成果と課題

SDGs14『海の豊かさをまもろう』ではリサイクルボックスを作成し、利用状況の確認をしたり、実施したアンケートをもとにグラフを作成したりすることで視覚的に振り返りをするようにした。SDGs12『作る責任・使う責任』では、国府まちづくりセンターで梅干し交流会を運営し、地域の方と交渉したり、協力したりすることで協働的な学びを実践することもできた。これらの活動を通して、生徒たちが主体的に課題解決にむけてトライアンドエラーを繰り返す姿が見られるようになったことが本活動の最大の成果だった。

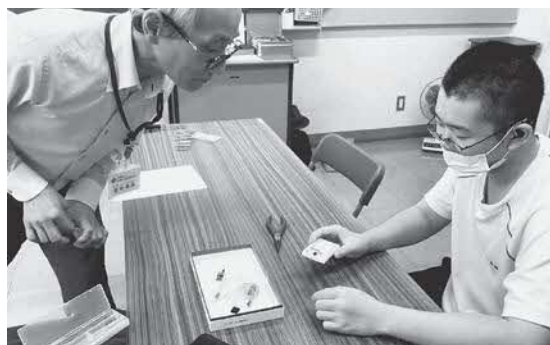
一方、学校内外の活動全般でコミュニケーションの課題に直面することにもなった。これに対してはICTを活用することで対処した。生徒同士の話し合いにはパドレット、自己評価にはグーグルフォームを用い、オンライン会議では字幕機能に加えてUDトークを用いることによって、視覚的にお互いの意見を確認したり自分の意見を表現したりすることができた。特に国府まちづくりセンターとのオンライン会議をやり遂げた後にコミュニケーションをとることに自信がついたと表現する生徒がいた。

動画制作は当初はタブレットで作業をしていたが、時間を要することからパソコンでの制作に切り替えることで作業時間を短縮することができた。動画制作では場面ごとに字幕を入れ、SDGsの課題について触れたり、感じたことを書き込んだりすることで、活動を振り返ることにつながり、更に思考を深めることにつながった。制作した動画を参観日で発表してアンケートをとることで他者からの評価を知り、SNSに投稿することで『いいね』などのレスポンスを集めることができた。

今後の課題として、生徒が課題をじっくり考え、仮説を立て検証し、その過程をビデオ編集するのに、多くの時間を要したことが挙げられる。生徒の動画制作のスキルアップの支援に加え、効率的な話し合いの進め方を提案し、見通しをもった計画を立てるための支援が必要である。

総合的な探究の時間・合同自立活動
～SDGs14 海の豊かさをまもろう編～

目標	サステナブルな社会を考える活動を通して、社会の中で自己がよりよく生きていくためにどうすればよいか、自立的に考えて行動できる力を身につける。	
月	学習内容	主な学習活動
5月	話し合い活動	高等部で話し合って、今年度総合的な探究の時間、課題研究でしたいことを決めるよう
	SDGs とは	SDGs の書籍の紹介・説明を聞く
	探究テーマを決めよう	自分が興味をもったテーマについて語ろう
6月	ネスレの取り組みから学ぼう	ネスレサステナビリティプログラム視聴
	海岸清掃 (動画撮影)	国分海岸清掃
	動画編集をしよう	ICT 支援員から動画編集の基礎を学ぶ
海岸清掃の様子を動画にまとめよう		編集した動画から疑問に思ったことを調べよう
7月		
(生徒の気づき) 海岸清掃後、動画編集をする中で、海岸のゴミはプラスチックが大変多いことに気付いた。		
7月	他教科での活動 現代の国語 「意見を示す」	小論文 「海のゴミを減らすためにどうするか」
(生徒の立てた仮説) 『人が捨てなくなるようなゴミ箱を作って、公的な所に置いてもらえば、みんなの意識が高まるのではないかな』		
9月	センサーで開くゴミ箱を作ろう	江津工業高校の先生にアドバイスをしてもらいながら、みんなが捨てなくなるような楽しいゴミ箱を作ろう
	一般の方の反応を確認しよう	本校のフェスティバルに置いてみよう 県立大学の学園祭に置いてもらおう
9月	現代の国語 「統計資料をもとに意見を書く」	結果を検証し、まとめる



総合的な探究の時間・合同自立活動
～SDGs12 作る責任・使う責任編～

目標	地産地消に関して自分ができることは何か考え、アクションをおこす。地域の資源を活用したものづくり（経済活動）について探究する。	
月	学習内容	主な学習活動
6月	地元でとれた梅の活用法を考える	梅の活用法について考えよう
	様々な保存食について学習する（理科）	発酵食品など
	保存食に適した梅干しを作ろう	実際に梅干しを漬けよう 地元の梅干し名人に相談しよう
（生徒の意見） 作った梅干しを給食に利用してもらいたい 保存食としてまちづくりセンターの倉庫にストックし、地域の防災に役立てたい インスタを使って発信したい		
9月	梅干し作り	①梅干し作り（梅漬け）
10月	梅干し作り	②梅干し（天日干し） ③つけ戻し
	地産地消について学ぶⅠ	地域の山林を利用した地産地消について学ぶ （※いわみんの取り組みから学ぶ）
	まちづくりセンターとコラボしよう	オンライン会議 ①備蓄倉庫に入れさせてもらえるのか質問しよう ②梅干しのすばらしさやSDGsを地域の人に伝える場として提供可能かどうか
（会議の結果） 衛生上や温度変化の観点から備蓄倉庫に梅干しを備蓄できないが、まちづくりセンターで地元の方に呼びかけ、梅干し交流会をすることに決定		
11月	第1回梅干し会議	梅干し交流会で何をするか話し合おう
		保存食としてのすばらしさを地域の方に分かってもらうにはどうすれば良いか考えよう
（生徒の意見） 梅干しのすばらしさを地元の人にプレゼンテーションしよう 地元の人に実演をしながら梅干しレシピを伝えよう		
11月	他教科での活動 現代の国語 「資料を用いて発表する」	発表用のパワーポイント作り 当日のタイムスケジュール作り
	第2回梅干し会議	梅干し交流会をどう運営していくか考える ・係分担、時間設定、流れ、準備を考える ・模擬でレシピ紹介をやってみる
	第3回梅干し会議	ビデオを見て振り返る
	一般の人の反応を確認しよう （梅干し交流会・まちづくりセンター）	梅干しの良さをプレゼンテーションしよう ・レシピ紹介をしよう ・アンケートをとろう
	他教科の活動 現代の国語 「説得力のある資料を作る」	アンケート結果をまとめ、改善案を考える
（生徒のアイデア） 給食のレシピを募集する		
11月	地産地消について学ぶⅡ	いわみんの活動の一つを体験しよう
12月	これまでのまとめをしよう	意見交換・ビデオ編集・インスタで発信
	梅干しレシピ選考会	給食レシピを話し合いで決め、正式に栄養教諭に依頼しよう
1月	発表しよう	ビデオやパワーポイントを使って発表しよう

※いわみん…一般社団法人イワミノチカラ

令和6年度島根県における消費者教育について

前 島根県消費者教育コーディネーター 遠藤 紀子

1 現状

幼児期から高齢期までの生涯を通じて、様々な場所で体系的・継続的な消費者教育を受けることができることを目指し、消費者教育を行っているところです。

令和4年4月の民法改正に伴う成年年齢引き下げに対応するため、令和2年度より消費者教育コーディネーターを配置し、教育委員会等と連携しながら、学校現場での消費者教育を実施しています。

下記4つの内容を中心に消費者教育事業を展開しています。

- (1) 消費者教育の実施
- (2) 教員向け研修会の開催
- (3) 関係機関との担当者会議の開催
- (4) 消費者教育情報冊子の作成及び配布

2 令和6年度の実施状況について

(1) 消費者教育の実施

①島根県消費者教育外部人材活用講師派遣事業（弁護士等の法律専門家を派遣）

実施別	校数	実施地域	参加人数
中 学 校	4	東部2・西部2	387
高 等 学 校	8	東部5・西部2・隠岐1	678
特別支援学校	2	西部2	13
大 学 等	2	東部2	109
合 計	16	東部9・西部6・隠岐1	1,187

○高校の保護者向けや中学校・特別支援学校での実施等高校以外にも実施対象が広がった。

○出雲高校の新聞部の校内新聞の発行により、生徒に加え保護者へも本事業の情報提供が出来た。

②消費者問題出前講座

消費者センター職員等が県内各地（学校、職域、地域等）に出向いて出前講座を実施

実施別	回数	実施場所	参加人数
若年者(学校等)	38	中学校、高校、特別支援学校等	1,552
高 齢 者 等	20	公民館、ふれあいサロン等	411
職 域 等	7	企業社内向け研修、商工会等	171
合 計	65		2,134

③学校における消費者教育実践研究委託事業（すくすく消費者第41号）

授業方法や教材研究を通じて、教育の質の向上を図る。また実践例を冊子で紹介することで一層の推進に繋げる。

④島根県明日への消費者活動支援事業の高等学校部活動への広がり

（三刀屋高校JRC部・平田高校JRC部）

- (2) 教員向け研修会の開催（10/16 18名参加 講義及びワークショップの開催）
- (3) 島根県消費者教育推進連絡会議の開催（6/7 12名出席 2/27 13名出席）
- (4) 消費者教育情報冊子の作成と配布（県内中学2年生向け：6500部）
- (5) 全国消費者フォーラム（国民生活センター主催）でポスターセッション参加（2/21）
～部活動に着目した高校での消費者教育の推進と消費者行政の連携～

編集・発行／島根県・島根県教育委員会 令和7年6月発行

〒690-0887 松江市殿町8番地3 島根県市町村振興センター5階

島根県環境生活部環境生活総務課消費とくらしの安全室

TEL(0852)22-5103 FAX(0852)32-5918

ホームページURL [https://www.pref.shimane.lg.jp/shohi_kurashi/]

本紙に対する御意見・御要望を
お寄せください



R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています

※環境にやさしいベジタブルインクを使用しています。